ユニセフ・ガーナ　スタディツアー報告

2026年9月26日(土)~10月4日(日)



ユニセフ・ガーナ　スタディツアー報告

2026年9月26日(土)～10月4日(日)

1. 世界の子どもたちの状況とユニセフの役割

2. 神奈川県ユニセフ協会の指定募金の取り組み

3. 2つのプロジェクトの視察
   PASSとCPツールキット

4. 児童婚撲滅のための全体的な取り組み
   関連分野間の共同と政府との協力

こんにちは
ユニセフです！

ユニセフは、みなさんから寄せられた募金で、**世界の子どもたち**の**生命**と**健やかな成長**、そして、**子どもの権利**と**未来**を守るために活動する**国連の機関**です。

国際連合児童基金＝
（こくさいれんごうじどうききん）

unicef
The United Nations Children's Fund


© UNICEF/UN0865934/Ramasomanana


© UNICEF/UNI1016374/Mohammed

unicef | for every child

日本の
子どもたちとも
深いつながり

戦後の日本への
ユニセフによる支援
1949ー1964



unicef | for every child



unicef
for every child

子どもたちが直面する世界の課題とユニセフの活動

© UNICEF/UNI870430/Do Khuong Duy

紛争と子ども

紛争下で暮らしている子どもは

4億7300万人

世界の子どもの**6**人に**1**人以上です

レバノン
緊急人道支援を必要としている人 **370万人**
（130万人が子ども）



シリア
緊急人道支援を必要としている人 **1670万人**
（750万人が子ども）



パレスチナ
緊急人道支援を必要としている人 **330万人**
（170万人が子ども）



ウクライナと周辺国
緊急人道支援を必要としている人 **1460万人**
（320万人が子ども）



イエメン
緊急人道支援を必要としている人 **1820万人**
（980万人が子ども）



中央サヘル地域
（ブルキナファソ、マリ、ニジェール）
緊急人道支援を必要としている人 **1360万人**
（760万人が子ども）



アフガニスタン
緊急人道支援を必要としている人 **2290万人**
（1240万人が子ども）



ミャンマー
緊急人道支援を必要としている人 **1990万人**
（640万人が子ども）



中央アフリカ共和国
緊急人道支援を必要としている人 **280万人**
（130万人が子ども）



ハイチ
緊急人道支援を必要としている人 **600万人**
（330万人が子ども）



エチオピア
緊急人道支援を必要としている人 **2140万人**
（1200万人が子ども）



ナイジェリア
緊急人道支援を必要としている人 **1280万人**
（800万人が子ども）



カメルーン
緊急人道支援を必要としている人 **440万人**
（230万人が子ども）



ソマリア
緊急人道支援を必要としている人 **690万人**
（430万人が子ども）



コンゴ民主共和国
緊急人道支援を必要としている人 **2540万人**
（1490万人が子ども）



スーダン
緊急人道支援を必要としている人 **3040万人**
（1560万人が子ども）



出典：ユニセフ「子どもたちのための人道支援2025」
数値・データはすべて2025年時点で確認できた最新です

複合的な危機の矢面に子どもたちが立たされている

紛争

4億7,300万人

紛争の影響のある
地域に暮らす
子どもの数
（世界の6人に1人以上）

飢餓

2億6,600万人

深刻な食料不安に
直面している人の数
（47の国・地域）
2025年だけでも、3,550万人
の子どもが急性栄養不良に

気候危機

11億人

3つ以上の気候災害の
重複リスクにさらされている
子どもの数

出典：ユニセフ 子どもと武力紛争 報告（2026）／食料危機グローバル報告書（2026）／子どもの気候リスク報告書（2026）



紛争 ―子どもたちの日常とあらゆる権利を奪う

ガザ・レバノン　子どもの死傷が続く

・ガザでは、2025年10月の停戦以降、子ども340人超が死亡、600人超が負傷(2026年10月時点)
・レバノンでは3月2日以降、子ども247人が死亡、1000人近く負傷
・推定60,000人の子どもが親の一方または両親を失った
・広範な避難、栄養不良、心理的影響、教育中断が続く
・水・衛生・医療インフラの損傷で公衆衛生リスクも深刻

スーダン　約1,400万人が国内外へ避難

・子ども1730万人を含む3370万人が人道支援を必要とする
・世界最大規模の人道危機と子どもの避難民の危機
・2025年に複数地域で飢饉が発生。干ばつが重なり、2026年も飢饉のリスクが高まっている。
・暴力、飢餓、教育停止、保護のリスクが重なる


© UNICEF/UN0914637/RANABHAT / AFP

世界の子どもたちを取り巻く危機ー気候変動

ネパール土石流

2026年8月26日 発生

地球温暖化の影響による氷河の後退が斜面を不安定にし、崩壊を促した可能性が指摘されている。

被災した人々
約8万4,000人

うち、子ども
約3万2,000人

家屋や生活インフラに壊滅的な被害

学校23校、保健医療施設7カ所が損傷・破壊
給水設備64カ所、トイレ約1万基にも被害

子どもへの影響

自宅や学用品を失い、避難生活と学びの中断
水・衛生・医療の被害で、健康を守る環境が悪化
家族との再会支援と、こころのケアが必要

2026年9月22日時点／人数は概数
出典：日本ユニセフ協会（／弘前大学ほか（2026年9月）2026年10月1日）／情勢レポート（9月22日）



©UNICEF/UNI830059

「川が、家も、なにもかもを、奪いました。中庭でよく遊んだことも、もう思い出しかありません」

サティさん（バングラデシュ 13歳）の家族は、川沿いで農業を営んでいました。モンスーン期の豪雨により川が氾濫、農地も家も失いました。家族は安全を求めて首都ダッカへ移住せざるを得なくなりました。家計は苦しくなり家族は生活のためにサティさんを早期結婚させることまで考えたといいます。

社会の変化・人びとの行動変容を導く長期開発支援



--Keyword--

「予防」

「自立」



緊急支援

まず、命を守る

- 安全な水・医療／保健
- 栄養不良治療
- 避難生活への支援
- 学びの場、ケアの場の設置

復旧・復興

日常を取り戻す

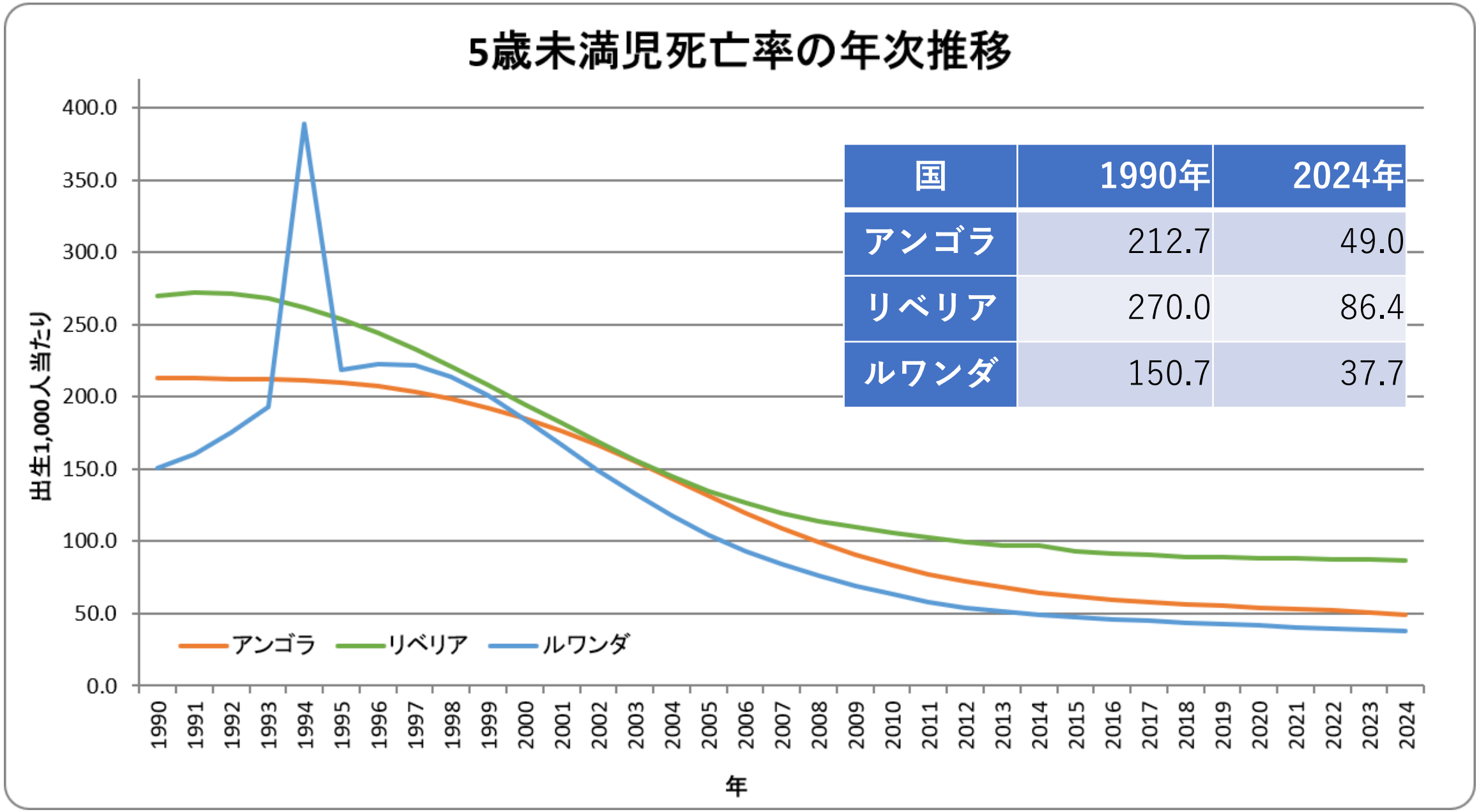
- 学校・保健施設の再開
- 給水設備などの復旧
- 暮らしの再建への支援
- 学習・心のケアの継続

長期開発支援

未来を支える仕組みをつくる

- 保健・教育・保護制度の強化（法の整備や予算・体制づくり）
- 各レベルでの人材育成
- 有害な慣行や習慣の改善、住民の意識の向上や行動変容

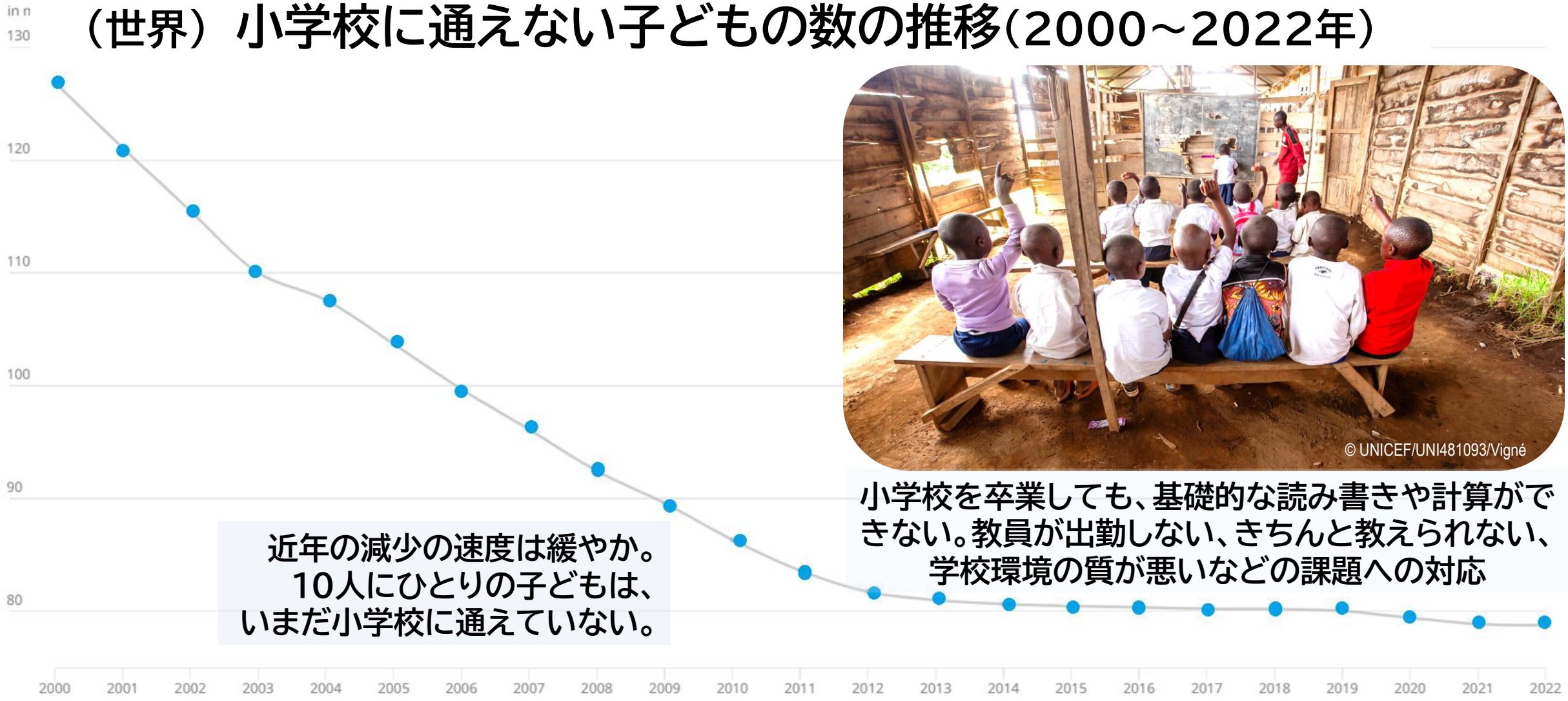
5歳未満児死亡率が下がることが意味するもの



国	1990年	2024年
アンゴラ	212.7	49.0
リベリア	270.0	86.4
ルワンダ	150.7	37.7

学校に通える子どもの数は増えている。が、本当に学べているのか？

（世界）小学校に通えない子どもの数の推移（2000～2022年）



小学校を卒業しても、基礎的な読み書きや計算ができない。教員が出勤しない、きちんと教えられない、学校環境の質が悪いなどの課題への対応

近年の減少の速度は緩やか。
10人にひとりの子どもは、
いまだ小学校に通えていない。

Source: UIS Data Browser, https://databrowser.uis.unesco.org/

いま、わたしたちが守る子どもが、世界の未来をつくっていく。

UNICEF in Action! ユニセフの主な活動

保健 栄養



命を守る。健やかに育む。

予防接種、栄養不良の治療、地域の保健センターの整備や保健員の育成、育児の知識の普及な[illegible]ある取り[illegible]

水と衛生



安全な水とトイレは、くらしの基盤。

安全な水場とトイレの整備、衛生習慣の普及に取り組み、子どものくらしを支える基盤を整えます。

教育



「子どもにやさしい学校」づくりを進め、教員を養成し、カリキュラムや学校運営体制を整え、必要な教材や設備を提供しています。

学ぶ力が、未来を生き、社会を変える力になる。

ガーナ「児童婚根絶」プロジェクト

子どもの保護

子どもを暴力や様々な危険から守る。

被害にあった子どもの保護、意識を変えるアドボカシー活動、政府と連携したセーフティネットや法的枠組みの構築などを進めます。



緊急支援

子ども最優先で支援を届ける。

緊急時に水と衛生や子どもの保護の分野で支援活動を主導するとともに、教育の回復、保健や栄養面での支援に取り組み、少しでも早く子どもの安全や安心を守れるように活動します。



子どもたちを守ることは、未来をつくる最も確かな行動です。ユニセフの活動を支えてくださる一人ひとりの力が、未来を守るための確かな「砦」となります。

写真（左上から時計回りに）：
©UNICEF/UNI404811/Assefa ©UNICEF/UNI466032/Naftalin
©UNICEF/UNI637060/El Baba ©UNICEF/UNI673492/Ramasomanana
©UNICEF/UNI858270/Mirindi Johnson



150以上の国と地域にユニセフ現地事務所、32の国と地域にユニセフ協会があり、約190の国と地域で「One UNICEF」として活動しています。

日本ユニセフ協会は
日本における
ユニセフへの
民間支援の
窓口です

日本ユニセフ協会年次報告（2025）

ユニセフ活動報告（2025 ）

日本ユニセフ協会の活動の3本柱

●ユニセフの子どもたちへの支援活動を支えるためにより多くの支援を得るための
募金活動

●子どもの権利に関する啓発と子どもの権利を実現するための政策提言や課題解決への働きかけを行う
啓発・アドボカシー活動

●子どもたちの課題とユニセフの活動について広く知らせる
広報活動

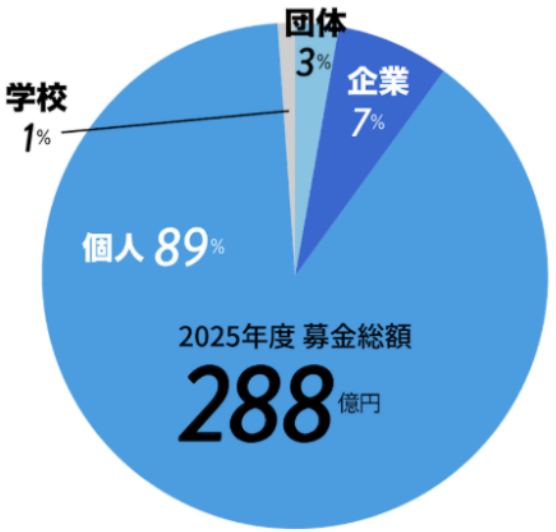
お預かりした募金は

世界約190の国と地域の活動へ（ユニセフ本部へ拠出） **84.9%**
日本国内の活動に **15.1%**

2025年実績



募金活動



個人の皆さまからの寄付額
約 **257.6億円**

ガザ人道支援緊急募金
約 **15億8,000万円**

年間10万ドル以上のご支援をいただいた法人
12企業 10団体

みなさまにお寄せいただく募金は、子どもたちを支える活動に大切に役立てられています。

協定地域組織について

地域に根ざして、ユニセフへの協力の輪を広げる活動拠点です。

全国27の地域組織

- **協力協定：**日本ユニセフ協会と「協力協定」を締結した任意団体
- **地域の拠点：**各地域の社会・文化に根ざした広報・啓発・募金活動を実施　機関誌の発行
- **ネットワーク：**ユニセフの支援活動を地域で伝え、協力の輪を拡大



賛助会費の50％は、地域組織の運営・活動費に活用されます。

主な活動例

出前授業

学校などで世界の子どもたちや子どもの権利を伝える

募金・寄付・賛助会員

ハンド･イン･ハンド募金活動を主宰、寄付金受領

地域イベント

チャリティウォークやユニセフセミナー、外国コイン仕訳体験などを開催

ユニセフ・ガーナ　スタディツアー報告

2026年9月26日(土)～10月4日(日)

1. 世界の子どもたちの状況とユニセフの役割

2. 神奈川県ユニセフ協会の指定募金の取り組み

3. 2つのプロジェクトの視察
   PASSとCPツールキット

4. 児童婚撲滅のための全体的な取り組み
   関連分野間の共同と政府との協力

【神奈川県ユニセフ協会の主な活動】

神奈川県ユニセフ協会の主な活動

広報啓発活動

広報物発行、ホームページ・SNSの活用、主催事業の企画・運営、各種イベントへの出展、学習支援講師派遣、学習会・セミナー開催、学習資料の提供、学習教材の貸出





募金活動

各種募金の呼びかけ、募金箱の設置依頼、**指定募金の取り組み**、外国コイン募金、書き損じはがき募金、チャリティイベント



組織強化・連帯

ボランティアの育成、パートナーズの拡大、他県協会との交流



ユニセフ募金には3種類あります

通常(一般)募金：使途をユニセフにお任せいただく募金です。ユニセフの定めた優先順位に従って、世界各地のユニセフの活動に役立てられます。

緊急募金：地震や津波、洪水、台風などの自然災害や、紛争で被災した子どもたちのための緊急・復興支援活動を支える募金です。

指定募金：対象とする国や地域、活動分野(保健・水と衛生・栄養・教育など)を指定して、3年ないし5年にわたり長期的に支援する募金です。

「指定募金」への取り組み

神奈川県ユニセフ協会では設立当初より、**子どもの保護分野の指定募金**に取り組んでいます。

暴力や搾取、虐待から
子どもたちを守る課題

第1次（2006～2010）	第2次（2011～2013）	第3次（2014～2018）	第4次（2019～2023）
ラオスの子どもたちを人身売買から守る	モルディブのすべての子どもに栄養と未来を	ネパールの児童労働と闘う	暴力と虐待からカンボジアの子どもたちを守る

その国や地域の子どもたちの現状とユニセフの支援内容をお伝えし、広く考えていく機会とする！

「指定募金」の取り組み

第5次指定募金
（2024年～2028年）

「児童婚を終わらせるために」

ガーナ共和国
指定募金



第5次指定募金にお寄せいただいた募金額

	送金計画（米ドル）	目標金額（円）（１＄149円換算）	実績（円）	実績（ドル）	換算レート１ドル＝円
2024年	108,000	16,092,000	17,846,981	115,927.13	153.95
2025年	108,000	16,092,000	20,078,182	131,092.86	153.16
2026年	108,000	16,092,000			
2027年	108,000	16,092,000			
2028年	108,000	16,092,000			
計	540,000	80,460,000	**37,925,163**	**247,019.99**	

ご協力ありがとうございます

ガーナ共和国の概要



面　積　238,537㎢（日本の約3分の2）
総人口　約3,506万人（2025年：世銀）
言　語　英語（公用語）、各民族語
宗　教　キリスト教約70%、
　　イスラム教約17%、その他
産　業　農業（カカオ豆）、鉱業

5歳未満児死亡率（2023）　35.9/1000
中・重度の発育阻害の子どもの割合 17.4%

ガーナの歴史

1471年 ポルトガル人がエルミナに上陸
17世紀 アシャンティ王国の成立
1821年 英領ゴールド・コーストが設置される
1823年～1831年 第一次英アシャンティ戦争
1901年 アシャンティ王国が英領ゴールド
　　・コーストに併合される
1957年3月 英国から独立（初代首相エンクルマ）

ガーナの子どもたちの全体的な状況

ガーナの子どもたちのための確かな前進

①世界で初めて「子どもの権利条約」を批准（1990年）
②子どもの死亡率の減少
③貨幣的貧困の減少
④初等教育の完全普及



ガーナの子どもたちの全体的な状況（2）

前進がある一方で取り残される子どもたち

①貧困
- 子どもの４人に3人が「多次元貧困」

②暴力から子どもを守る
- ６人に1人の女の子が結婚または事実婚の状態
- 110万人以上の子どもが労働に従事
- 0～12歳児の27%が出生登録されていない

③子どもの命を守る
- 子ども予防接種率が低下
- 約18%が野外排泄を実施

④学び、技能を身につける
- 12年間在学しても実質的な学習成果は6年分
- 6から17歳の約100万人が未就学



「児童婚」とは

18歳未満での結婚、または
それに相当する状態にあること

- 教育の中断
- 就労機会の制限
- 社会的孤立
- 性的暴力
- 早期妊娠



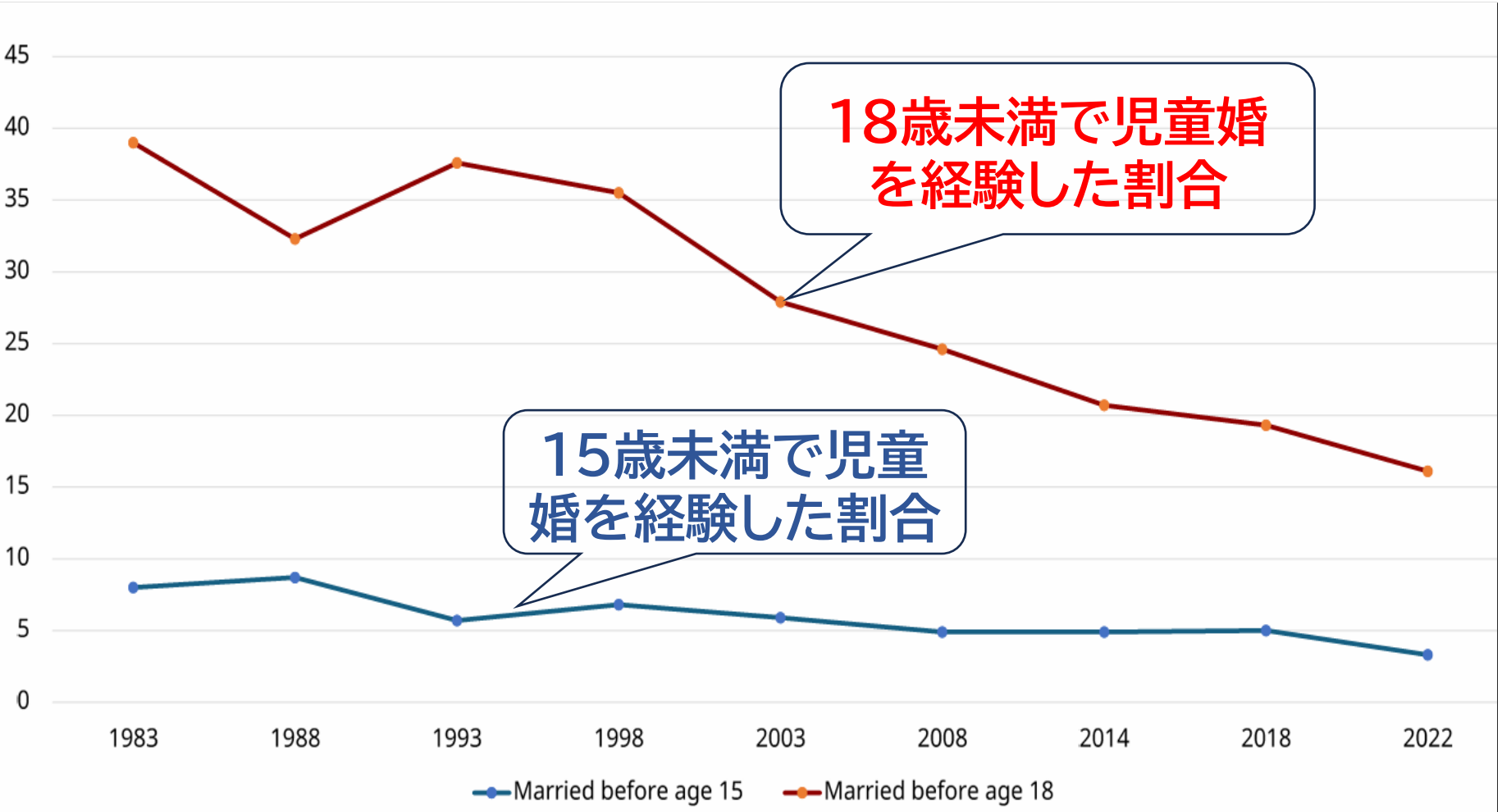
©UNICEF/UN537322/2010

SDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

ターゲット5.3

未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚、女性器切除（FGM）など、
あらゆる有害な慣行を撤廃すること

ガーナにおける児童婚の経年推移



Notes: Trends in the prevalence of child marriage presented in the above figure relied on an age-cohort analysis taking into account data from Ghana DHS 1988, 1993, 1998, 2003, 2008, 2014, 2022 and MICS 2017-2018.

①18歳未満の児童婚の割合は、1980年代の約40%から、2022年には16.1%、と減少。

②長年にわたり5%前後で推移してきた15歳未満の児童婚の割合も2022年には3.3%へと減少。

③ただし、いまだに6人に1人が児童婚をさせられている状況。

ガーナにおける児童婚の要因

① 貧困

② 教育および生計手段の不足

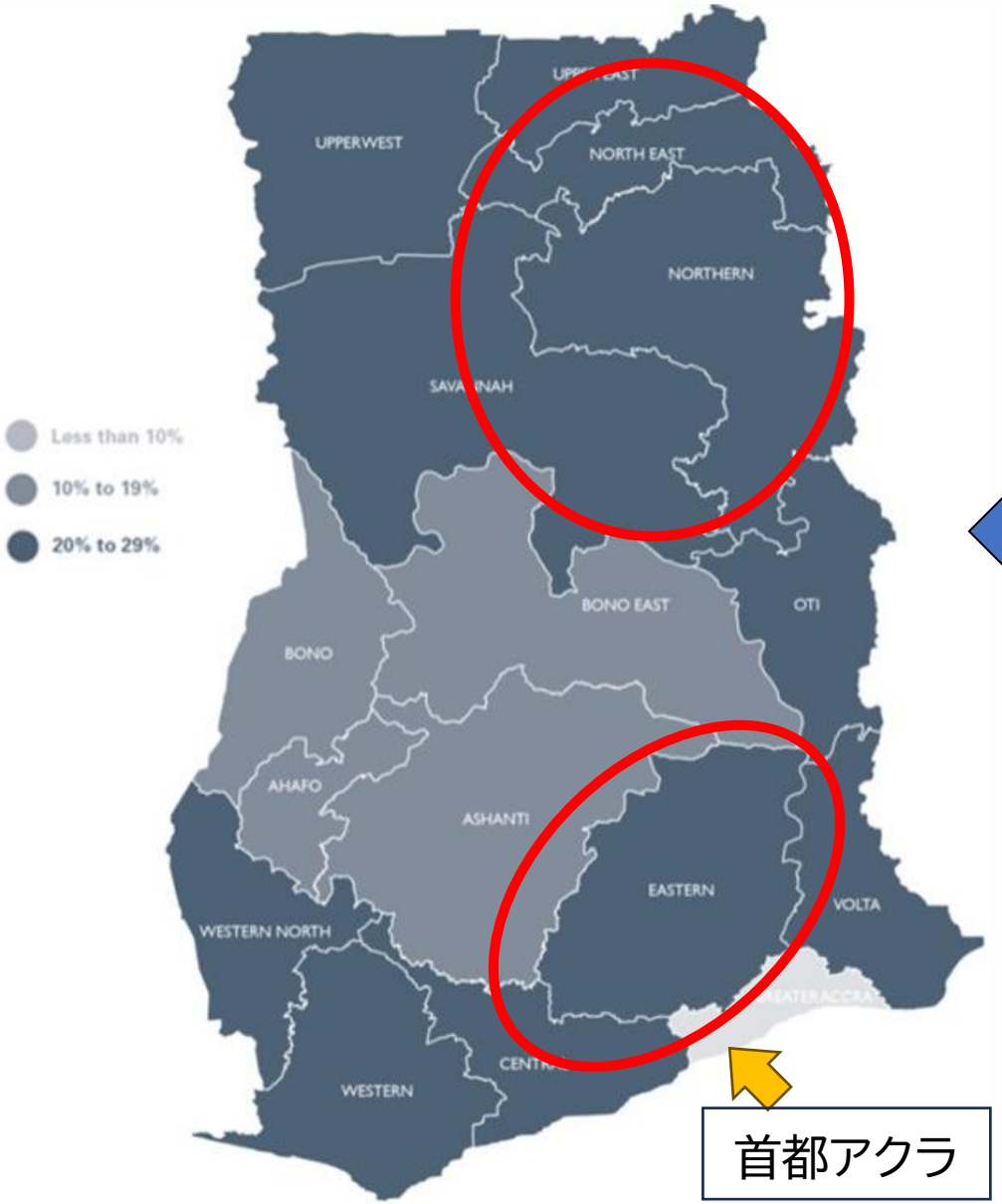
③ 思春期の妊娠

④ 社会的な規範やジェンダーにもとづく差別的な規範

⑤ 有害な伝統的・慣習的慣行

※ これらの要因の多くは、脆弱な子どもたちに共通する

ガーナにおける児童婚の発生割合の地域差



Source: MICS 2017/2018

北部と南部・東部において児童婚の割合が多い。

ガーナの児童婚（2018年データ）
全国平均…19%
・北部地域…28%
・東部地域…23%

指定募金による支援の目的と対象となる活動（1） PASSプログラム

支援プログラムの目的：

進捗が遅れている3州（北部州、北東州、東部州）において、2029年まで、児童婚をなくすための国家的な取り組みを加速させること

活動（その1）：PASSプログラム

最も脆弱な立場にある思春期の少女のエンパワーメント（社会的地位の向上と支援を行うプログラム）を目的とした集中的かつ継続的な支援を行う。

少女たちが安全だと感じる場所において、最低8か月の間ライフスキルや性教育を学ぶ

対象：6,000人

PASS ： Promoting Adolescents Safe Spaces

指定募金による支援の目的と対象となる活動（2） CPツールキット

活動（その2）：CPツールキット

CPツールキット：親や保護者、伝統的・宗教的指導者、コミュニティに住む人々を対象にした啓発活動を行うプログラム

政府とユニセフが開発したツールキット（イラストカードとマニュアル）を使って質問や話し合いをするというもの。

対象：30,000人

CP Toolkits ： Child Protection Facilitation Toolkits

ユニセフ・ガーナスタディツアー報告

2026年9月26日(土)～10月4日(日)

1. 世界の子どもたちの状況とユニセフの役割

2. 神奈川県ユニセフ協会の指定募金の取り組み

3. 2つのプログラムの視察
PASSとCPツールキット

4. 児童婚撲滅のための全体的な取り組み
関連分野間の共同と政府との協力

北部州　タマレで活動を視察



首都のアクラから北部州のタマレに移動

児童婚の減少が遅れている北部州の活動を視察します

ガーナ北部州の風景




PATOR

ガーナ北部州の風景







北部州の地域性～伝統的･宗教的指導者の存在



PASSを活用したアクティビティの視察

●PASSプログラムとは

　特に脆弱な思春期の少女（10～19歳）のエンパワーメント（社会的地位の向上と能力強化）を実現するために集中的な支援を行うプログラム。

　少女たちが安全だと感じる場所において、年齢別に少女たちを2つのグループに分けて（10～14歳および15～19歳）、最低8か月の間ライフスキルや性教育を学ぶ。



（PASS＝Promoting Adolescents Safe Spaces）



PASSを活用したアクティビティの視察

女の子たちのグループ



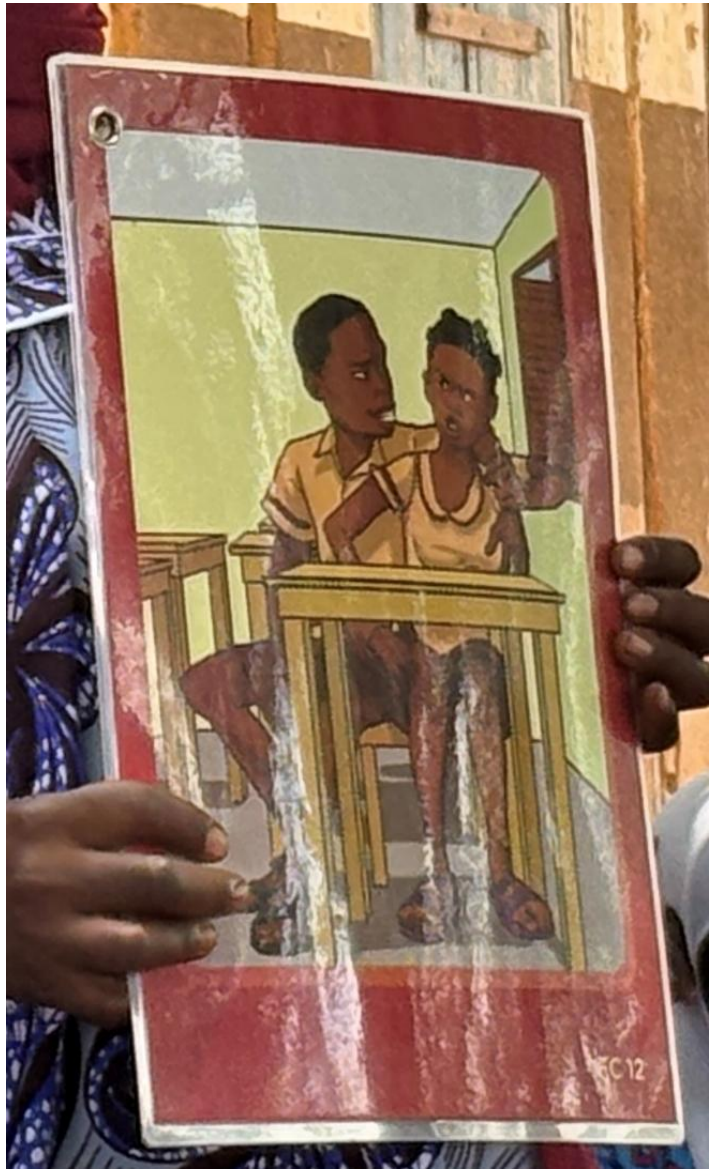
ファシリテーターが、「男の子が女の子の気を引こうとしている」イラストを示して、

「何をしようとしている絵に見えますか？」
と問いかけ。



PASSを活用したアクティビティの視察

女の子たちのグループ



男の子が女の子の気を引くために何が起こる？

小さなギフトを持ってきたりする

貧しい子をあえてターゲットに

お礼に性交渉しなくてはいけない

そういった形で15歳から17歳の女の子が妊娠したとして、
次に何が起こる？



結婚させられてしまう

結婚する前に子どもを産むなんてありえない

学校をやめてしまう

PASSを活用したアクティビティの視察

女の子たちのグループ



女の子は亡くなってしまうのでは？
そういうことが起こって大人たちは初めて
気づくのではないか。

個人の問題ではなく、
コミュニティ全体の問題

PASSを活用したアクティビティの視察

女の子たちのグループ

🏫 女の子は妊娠したら必ず結婚しなければいけないわけではない。
親と暮して、サポートを受けながら学校に行くことはできる。

📝 妊娠してからでも、出産してからでも学校に行くことはできる。

👱 男の子も必ず結婚しなければいけないわけではない

⚖️ 困った時は、コミュニティの年配者や、リーガルリテラシー
ボランティアに相談することができる。

PASSを活用したアクティビティの視察

女の子たちのグループ

- 児童婚がなかった未来
- 自分たちにできること
- 助けを求める行動
- 結婚に関する法律とルール
- 対話から生まれた気づき

PASSを活用したアクティビティの視察

女の子たちのグループ

＜グループインタビュー＞
PASSを受けて良かったことは？

- 🔄 コミュニティのルールを変更
- ⚖️ 困ったときに相談できる仕組み
- 📈 プログラムの効果

PASSを活用したアクティビティの視察

女の子たちのグループ

＜グループインタビュー＞
PASSを受けて良かったことは？

- 🛑 「NO」と言える自信がついた
- 🏠 家庭内の役割分担を学んだ
- 🛍️ 外の世界とのつながりが生まれた
- ✨ 家族の行動にも変化が生まれた

PASSを活用したアクティビティの視察

男の子たちのグループ



ファシリテーターが、「女の子がダンス会場で男の子に絡まれている」イラストを示して、

「どんな状況だと思いますか？」と問いかけ。


standard chartered

アルハッサン・アブドゥル・ジャリルさん（16歳）

PASSを活用したアクティビティの視察

男の子たちのグループ

＜グループインタビュー＞

①このセッションは好きですか？

- 💡 将来に役立つ学びがある
- 🔭 将来を考えるきっかけになった
- 🌙 夜の危険な活動が減少
- 🛡️ コミュニティの安全向上

PASSを活用したアクティビティの視察
男の子たちのグループ

＜グループインタビュー＞
②日常に役に立ったことは？

👬「全部が有益。親を手伝うようになった」

🤝「ひとの尊厳を守ることが大切だって知ったので、
女の子をたぶらかすようなことを僕は絶対にしません」

🛡️「14歳の妹がいるので、早く結婚させるようなことは絶対に
しないようにお母さんに強く言っている」

PASSを活用したアクティビティの視察
男の子たちのグループ

＜グループインタビュー＞
③家や学校との違いは？

🍽️「学校では“家で皿洗いしなさい”と言われない」

⚖️「学校では、男女の役割についてははっきりさせてくれない、
ここでは明確に言われる」

🧰「学校ではライフスキルのようなことは教えてくれない。
ここに来ると生活の現実を学べる」

PASSを活用したアクティビティの視察

男の子たちのグループ

＜グループインタビュー＞
④親の反応は？

👬「これまでは親に話したりするのが難しかったけど、手伝うようになってから親が近くなって、何か問題があったときも話しやすくなった」

👬「親はこういうところに参加している子どもを誇りに思ってくれている。頼もしく思っている。ここでいいことを学んでいるという受け止め。毎週金曜日のセッションの前には、親がリマインドしてくれる」

PASSを活用したアクティビティの視察を振り返って

📚 新しい知識とライフスキルの習得と高い満足度

🔄 意識と行動の変化

👨‍👩‍👧‍👧 家庭への波及効果

🌍 コミュニティの変化

CPツールキット活用したアクティビティの視察

●CPツールキットとは

家族、伝統的・宗教的指導者、コミュニティに住む人々を対象にした啓発活動を行うプログラム。

子どもの保護のための「ツールキット」（イラストカードとマニュアルのセット）を用い、児童婚の有害性や女の子の教育の重要性を伝える啓発活動を行います。



（ CP Toolkits：Child Protection Facilitation Toolkits ）

CPツールキットを活用したアクティビティの視察



ファシリテーターが、スプーンを使った演習を説明。

「スプーンに入った水を、邪魔されないように、こぼさずに指定された場所まで歩いてください！」



CPツールキットを活用したアクティビティの視察を振り返って

① みんなで集まって話をすることで、コミュニティの結束力があがり、児童婚の早期発見につながっていく。

- 「みんなで集まって話をする機会がない」
- 「北部の方はシャイな方が多く、男女が同じ場所に集まって、ましてみんなの前で女性が発言する姿に驚いた」（ユニセフガーナ事務所の職員）

② 教育省や保健局とも一緒にやっているので、児童婚だけでなく、さまざまな支援につなげていくことが可能になる。

③ 子どもたちを対象としたPASSと同じコミュニティで同時にやることによって相乗効果をあげていくことができる。

PASSの視察を通して感じたこと

◆「子どもの声が未来を変える」

今回の視察で見たもの

子どもたちの声／ 地域の力 ／ 支援の仕組み

そして、現地に行ったからこそ分かったこと

◆ 今回の視察で見てきた、3つの変化

CHILDREN

子どもたちの変化

自分の権利を学び、考え、自分の言葉で意見を伝える

COMMUNITY

地域の変化

子どもの声を大人が受け止め、地域の対応につなげる

SYSTEM

支える仕組み

教育・保健・警察・司法などが連携し、必要な支援につなぐ

子どもだけを変えるのではなく、子どもを取り巻く環境にも働きかける

◆ なぜ、男の子たちも学ぶのか

児童婚は、女の子だけの問題ではない

意識

相手の権利や尊厳を知る

→

行動

自分の言葉と行動を変える

→

環境

家庭や地域の考え方に広がる

女の子を守ることと同時に、男の子自身が「相手を尊重する側」へ変わることが必要

◆ 私が忘れられない、男の子

「人の尊厳を守ることが大切だと学んだ」

・女の子をだましたり、誘惑をしたりしない

・14歳の妹を早く結婚させないように、母親に伝えた

学びが行動に代わる

1　知る

2　考える

3　家族に伝える

子どもは、守られるだけの存在ではない。自分の言葉で、家族や周囲を変える力を持っている。

◆ 子どもの声が、地域を動かした

「子どもだから、何も変えられない」ではない

子どもたち

夜遅くまで外にいることなど、身近な課題に気づく

→

声を上げる

地域の長老・リーダーに自分たちの思いを伝える

→

地域が対応

23時以降の外出をめぐる地域のルールについて対応

子どもたちが声を上げたこと。そして、大人がその声を受け止めたこと

この両方があって、地域の変化につながった

◆ 児童婚を取り巻く背景は、一つではない

貧困	教育	家庭の経済	慣習・文化
ジェンダー	思春期の妊娠	正しい知識	地域環境

「児童婚をなくそう」と伝えるだけでは、背景にある事情は変わらない

なぜ起きているのかを理解し、生活・教育・地域の環境にも目を向ける

◆ 制度が「ある」だけでは不十分

出生登録の例から見えた、制度と現実の距離

制度がある
出生登録の仕組み

→

利用したい
必要性を知っている

→

壁がある
距離・時間・費用

→

届かない
手続きを諦めることも

制度を整えることと、その制度が必要な人に届くことは違う

制度は「つくったか」ではなく、「使えているか」まで見る必要がある

◆ PASSとCPツールキット2つの役割

PASS

子ども自身の力を育てる

権利や安全について学ぶ、
自分で考え、意見を伝え、
身近な行動につなげる

CP TOOLKIT

必要な支援につなげる

子どもを取り巻く課題を把握し、
教育・保健・警察・司法など、関係
者の連携を支える

子ども自身の変化と、その変化を支える仕組み
その両方がそろって力になる

◆ ガーナまで行ったからこそ分かったこと

資料では「活動」を知ることができる

現地では「人の変化」を見ることができる

資料

PASSがある

→

現地

本人の言葉を聞く

→

実感

行動の変化を見る

「学んだことが、実際の生活でどう生きているのか」
自分の目と耳で確認できた

◆ 知識が、行動に変わるまで

1

知る

権利・ジェンダー・安全について学ぶ

→

2

考える

自分の経験と結び付け、仲間と話し合う

→

3

行動する

自分の生活や家庭で実際に行動する

「教えたこと」より、「自分の考えとして持ち帰り、行動したこと」に価値がある

◆ ガーナから、私自身が持ち帰ったもの

言葉が通じる難しさ

伝えたつもりでも、相手に届いているとは限らない

自分の基準で判断しない

目の前の行動だけでなく、その人の背景や事情を考える

まず聞き、確かめる

相手の話を聞き、本当に伝わったかを確かめる

自分の「当たり前」を疑い、相手の背景を理解しようとする姿勢を持ち帰った

◆ 現地で生まれた変化を、一時的な成果で終わらせない

地域で続ける

コミュニティリーダーや家族が子どもの声を受け止める

連携を深める

教育・保健・警察・司法が課題を共有し支援につなぐ

仕組みに残す

政府の施策・制度に位置づけ、地域に根づかせる

支援のゴールや、支援がなくなった後も、変化が続いていくこと

指定募金による支援を、子ども・地域・制度の持続的な変化につなげていく

◆ これからの可能性

2つの活動を、児童婚のない未来につなげる

PASS ： 子どもたちが学び、考え、声を上げる力を地域へ広げる

CPツールキット ： 関係機関の連携を深め、必要な支援を地域に根付かせる

2つの活動を行政の施策や制度につなぎ、支援が終わった後も続く仕組みへ

子どもたちの変化が、地域全体の未来へ広がっていく

ユニセフ・ガーナスタディツアー報告

2026年9月26日(土)～10月4日(日)

1. 世界の子どもたちの状況とユニセフの役割

2. 神奈川県ユニセフ協会の指定募金の取り組み

3. 2つのプロジェクトの視察
   PASSとCPツールキット

4. 児童婚撲滅のための全体的な取り組み
   関連分野間の共同と政府との協力

少女たちを取り巻く環境全体が変わることで児童婚根絶に近づく

ユニセフ・ガーナ事務所の他の分野での取り組みも
児童婚の課題解決につながっている

- 保健・栄養
- 教育
- 水と衛生
- 社会政策
- ジェンダー
- 社会行動変容



© UNICEF Ghana

児童婚は「一つの課題」ではなく、複数の要因の結果

一見関係のないものも関係している。
安全に、健康に、学び、将来を選べる環境を一体として整える

保健・栄養

・セーフティネットの構築（安全な出産、復学支援等）
・親になった思春期の子どもへの支援（医療支援）
・男子に対する働きかけ
・貧血予防

教育

・女子の学習機会の拡充（復学ガイドライン）
・ジェンダー配慮型指導法
・性教育
・選択肢を広げる取り組み（キャリアガイダンス、STEM教育）
・インクルーシブ教育の拡充

児童婚の根絶

水と衛生

・安全で手頃な生理用品
・月経衛生、栄養に関する情報提供
・月経に関する否定的な社会規範の対応
・学校の男女別トイレなど、衛生設備の整備

社会政策、インクルージョン

・思春期の女子の生計向上（職業訓練、起業支援）
・各種社会サービスへのアクセス（健康保険、保健、教育、ケースマネジメントによる支援等）

子どもの保護、社会・行動変容

・暴力と有害な慣行の防止、
・社会規範を変えるための働きかけ
・女子の声を政策に反映させる

健康を守り、学校にもどる道をつなぐ

妊娠や出産による学びの途切れを、将来にまでつなげない



保健サービス → 心理社会的支援 → 復学支援

保健・栄養

- 妊娠した思春期の女子の安全な出産を支える
- 社会サービスやメンタルヘルス、心理サポートの提供
- 再妊娠、貧困、児童婚の連鎖を断つ
- 男子にも有害なジェンダー規範を問い直す。
  ジェンダーによる暴力の予防
- 母子、思春期の女子への栄養面でのサポート

教育

- 復学ガイドラインを整備・展開
- 安全でインクルーシブな学校づくり
- STEM教員や職業訓練への参加を後押し

85,000人	250郡	4,000人超
年間に支援する妊娠した少女	復学支援の連携体制	復学した若い母親

「通い続けられる」「自分で選べる」を支える

月経衛生と経済的自立は、少女の尊厳と選択肢を守る土台



学校生活を続ける環境 ＋ 経済的な選択肢

水と衛生・月経時の衛生

生理用品、正しい情報、
社会規範の変化、
学校の衛生設備

11万人超

月経時の衛生管理に関する支援を受けた女子

LEPIP（Livelihood Empowerment and Productive Inclusion Programme）

学校教育から離れてしまった女子は、経済的に家族やパートナーに依存しやすくなり、児童婚や10代妊娠のリスクが高まる。
そうした女子に対し、職業訓練だけでなく、起業資金や保健・教育などのサービスを一体的に提供し、自ら将来を選べる力をつける取り組み。
貧困世帯への現金給付などガーナ政府による既存の社会保護制度（LEAP）に女子向けの支援を重ねたもの

2027-28年に
7000人超
への支援を見込む

経済的依存と
児童婚リスクを軽減

社会の「当たり前」を変えていく

地域のリーダー、家庭、学校、若者自身とともに行動変容を促す



宗教・伝統的リーダーとの協働
若者に届くデジタル情報

698人

研修を受けた宗教指導者

宗教指導者向けトーキングガイドの開発

68,000人超

4地域で児童婚に関連するテーマでの対話に参加したコミュニティの住民

1,000万件

2015年以降のオーディオコンテンツ利用件数

通信会社と連携し、短い番号をかけると自動応答で聞けるオーディオコンテンツを提供

スタディツアー全体を振り返って（まとめ）

① 指定募金が対象とするPASSとCPツールキットの活動の有効性を現地で確認することができました。
- 子どもたちの意識と行動の変化を確認することができ、対面型の活動の有効性を実感することができました。
- 思春期の子どもたちとコミュニティの大人たちの双方を対象にすることの有効性についても確認することができました。

② 今後の活動の広がりと児童婚撲滅に向けた展望を確認することができました。
CPツールキットはすでに政府の施策に位置づけられており、PASSについても、政府の施策に位置付けて広げていくように働きかけを進める予定だと伺い、今後の活動の広がりの中で児童婚撲滅に向けた展望を確認することができました。
また、ユニセフ内部での連携や政府との共同も進んでいることを確認できました。

③ 指定募金による5年間という長期の支援が、計画的・継続的な活動にとって非常に有効であるとの感謝の言葉をいただき、指定募金を取り組んでいく確信にすることができました。